良城小 URL：http//www.yamaguchi-ygc.ed.jp/ryojo-e/

良　城　小　学　校
学校だより９月号
児童数８２４名
平成２９年９月１日

かわらばん

13年後（平成42年（2030年））の社会を担う若者を育てるために

校長　増　野　淳　一

日本の学校教育は、文部科学省が定める「学習指導要領」に沿って行われています。

学習指導要領は、ほぼ10年ごとに改訂されており、小学校では3年後の平成32年度から新しい学習指導要領に沿って教育が行われます。学習指導要領は、改訂されてからその後10年間続く教育の指針ですから、今回は、平成42年（2030 年）の社会を担う若者を育てるための指針です。

新学習指導要領が描く2030 年の日本はどのような世の中なのでしょうか。グローバル化や情報化は想像を超えて進み、子どもたちの65％は将来、今は存在していない仕事に就くと予測される報告もあります。また今後20年後までには、今の仕事の約半数は自動化されると言われています。

このような予測が難しい時代を生きる子どもを育てる新学習指導要領が本年3月に告示されましたが、その根幹にあるのが**『社会に開かれた教育課程』**という方向性です。

教育課程とは、学校で行われる教育内容・計画（何をどう教えるのか）を指します。社会に開かれた教育課程については、①よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、②各学校において、必要な教育内容を子ども達がどのように学び、どのような資質・能力を身につけるようにするかを明確にしながら、③社会との連携・協働によって実現を図っていくと示されています。

また、改訂の基本方針である一昨年の中央教育審議会の答申では、これからの学校のあり方について、「子供たちに、新しい時代を切り拓（ひら）いていくために必要な資質・能力を育むためには、学校が社会や世界と接点を持ちつつ、多様な人々とつながりを保ちながら学ぶことのできる、開かれた環境となることが不可欠である」としています。

山口県は全国でも飛び抜けてコミュニティ・スクールの取組が進んでいます。これからの日本の学校が進むべき道の一歩先を進んでいると言っても過言ではないでしょう。本校でも現在、コミュニティ・スクールとして地域社会と連携して教育を進めています。

次の学習指導要領が見据える13年後の2030年は、今の1年生が20歳となり、社会に出て行く時期となります。良城小学校の子どもたちが、予測の難しい未来において、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いてよりよい人生を送ることができるよう、保護者や地域の皆様と一体となって、良城（吉敷）だからこその地域とともにある学校づくりを進めていきたいと考えています。

2学期のスタートに当たり、やや堅い話となりましたが、今後の本校教育の推進において大変重要な内容と考え、新生学校だよりの巻頭とさせていただきました。

今号より、良城だからこその教育の実現に向け、内容を拡充し、地域の全ての方々へ回覧配布することにいたしました。本校ホームページ、吉敷交流センターの学校掲示と併せ、本校教育の取組を知っていただくとともに、皆様のご意見もお聞かせいただけると幸せます。